

研究テーマ	富士北麓・東部地域の伝統的な織物を活用した新商品開発（第3報）		
担当者（所属）	五十嵐哲也・鈴木文晃・秋本梨恵（繊維）・家安香（客員研究員）・豊浦正広・茅暁陽（山梨大）		
研究区分	重点化研究	研究期間	平成30年度～令和2年度

【背景・目的】

本県織物産地は、甲斐絹をルーツとする伝統技術を生かしカーテン、衣料、ネクタイ、傘、ストール等を高級市場向けに生産している。近年下請けから提案型への転換が求められる中、従来の取引先からの受注量は縮小しており、産地企業は提案力の高度化と、新市場開拓の双方に対応する必要がある。そこで、これまで研究開発した技術シーズを製品開発の現場で活用するためのツール開発、また技術シーズを最適な市場に向けて製品化する企画デザイン支援を行うことで試作開発の高速化・高度化による競争力強化、新市場・新規顧客の開拓を支援し、従来と異なる新市場（分野・用途）への進出、海外産地等、既存市場の新規顧客の獲得を目指す。

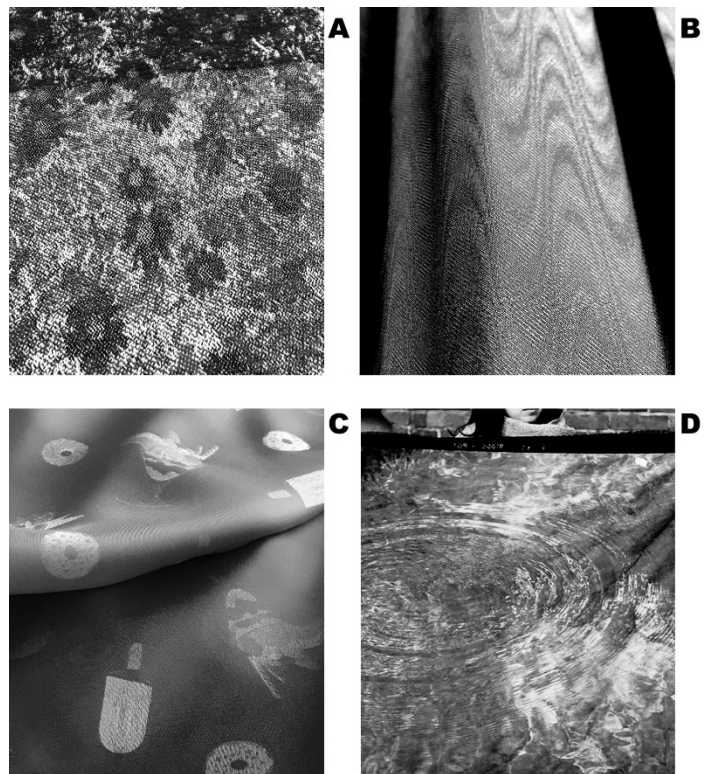
【得られた成果】

*技術シーズ（ジャカードデータ生成技術）を織物製造業の企画・デザイン業務に導入するため開発したアプリケーションソフトに、白黒2色の緯糸を用いて明暗コントラストを高める機能を実装し機能を向上することができた。

*技術シーズを生かした新商品の市場投入に向けて、産地企業11社（今年度新たに5社追加）の企画・デザイン担当者とともに新規織物の企画及び試作開発を行った。これによって、色糸と織物組織の相互作用により色彩や陰影をスムーズに変化させる技術を活用するノウハウが蓄積され、図A・Bのような試作品を元に商品化が決定した事例が複数生まれたほか、図C・Dのような試作品が、新市場に向けて産地の技術開発力をPRする媒体等に活用された。

【成果の応用範囲・留意点】

本研究成果はジャカード織物全般に応用可能。研究終了後には、コロナ禍による本県織物産地への受注減を補うため、新市場開拓に向けた商品開発に生かせるよう支援を行っていく。なお本研究で活用している技術は山梨県及び山梨県と山梨大学が保有する特許技術が含まれるため、商用利用には実施許諾契約が必要となる。



- A ブランケットとして商品化予定の生地試作品
- B 傘地として商品化予定の生地試作品
- C 産地組合より発行するPR冊子『WARP』に掲載された裏地素材の試作品
- D 富士吉田市内で開催された写真展「ハタオリマチノヒビ」にて展示された写真家砺波周平氏の作品を元にした織物

図 主な試作生地（A～D）